
私の色

雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の色

【コード】

N3961I

【作者名】

雨

【あらすじ】

自分の思った通りにならないとすぐ
キれるミヤ。いじめなどで心を汚したミヤ。
始まりは高校の入学式。
音楽の教師に出会い
ミヤに変化が…

私の色

夢。一緒に叶えよう。。。

く春く

『つか卒業式とかバカみてえ』

「卒業証書いらねーし」

「きゃははは」

白崎ミヤ。15歳。

今日中学校を卒業します。。

「あっおい！遠藤！！」

ビクッと肩を震わせる遠藤サユリ。
うちの遊び道具。。

相変わらずの長い黒髪。

「なっなんですか？」

カバンを抱きかかえている

よっぼどこえーんだな・・（笑）

「何ですかじゃねーし！」

「何で来たんだよ！」

そう。世に言ういじめ。

私はいじめをしているのだ。

涙目になる

遠藤。

「こら！整列しろ！！」

「ちっ」

先生の声で

うちらは

体育館へと向かった。

ポロイ校舎ともおさらばだ…
かかとをふみつぶして
跡がついている
上靴も…

「なァーミヤっ」

『ん?』

「お前まじで高校行くの??」

『だめ??』

「いや、いいんだけど…意外だったからさ」

『ミヤだつて勉強くらいしますー』

「はは(笑) まあ離れても

よろしく!」

『おっけー』

一番の親友

雨宮レイ。

レイは高校にいかないらしい。

まあレイって勉強とかするタイプじゃないし…

「只今をもちまして
第32回卒業式を終わります」

校長の言葉と同時に
生徒達の

ため息が聞こえる。

もちろん泣いてる奴もいるけど
ミヤは泣かないし・・・

「さー今から卒業記念に
プリでもいけますか」

「超賛成!!!いこー」

「ミヤも行くでしょ??」

『もちろん』

「よっしゃーいこーぜ」

「あっあの!!」

後ろから声がした

「んだよ...」

友達のアイがキレ気味に言った。

「これから
お別れ会なんですけど…」

学級委員の…

宮古??えりだっけ??
「忘れてたし。」

「いくわけねーじゃん」

「つかお別れ会とかだっさー」

「勝手にやってるよ(笑)」

「でっでも…」

確か強制なんだよね
学年行事だから

でもね

『宮古さん』

「ほふ…」

『そーゆーの…うざい』

思いつきり睨んだ先には
今にも泣きだしそうな
学級委員の姿が

『ふっバカみたい。行こッ』

本当。あーゆーいい子ちゃんって
うざい。

「おっやつと着いた〜」

「早くいこー」

「ほら！ミヤッ」

『え???うん!?!』

「最新のでてなくね??」

「あれ可愛い〜」

ミヤと同じ年の人達が
たくさんいる。。

つてかこみすぎでしょー！ー！ー！

「ああ！たらたら歩いてんじゃねーよ！」

レイがキレた…。まあいつものことだけどさ。．．

「すみません」

「すみませんじゃねーよ！」

「レイやめろつてー」(笑)

「超うける」(笑)

『かわいいぞー』

止めるわけないし。

「すみません…。」

一生懸命謝る人を見ると

絶対言っちゃつ。

『かわいいそッ』

つて、、、

プリも撮り終わり
近くの
ファーストフード店に向かう。

「あーやつと学校行かなくていい」

「マジ疲れるよな（笑）」

「ミヤは行くんでしょ？学校」

『え？ああ』

「まじかよーよくやっつてられんなー（笑）」

「…！！アイツ」

「あ…」

『怒ってないよ??』

「そ？よかつたー」

周りからみればリーダーはレイ。
だけど実際

TOPはミヤだから。(笑)

「いっただきまーす」

一気に食いつく
うちら。

「超うんめえ」

「だから」

「あっポテト頂戴！」

っと言って

アイが手を伸ばした瞬間

バツシャーン!!!!!!

ミヤのジュースが倒れた。

制服もビチョビチョ…

「ミヤじゅめん(笑)」

『は?』

「え…」

『人にジューズぶっかけといて
その態度なに?』

静まり返る
アイ達。

『ありえないんですけど…』

「じゅめん…」

「ミヤッアイわざとやったわけじゃ…」

『んだよ！！レイはアイの味方なわけ？』

「そーゆーわけじゃ……」

『まじ最悪……』

「しゅめん……」

『はあ……帰る。』

つと言い

席をたつた。

「ミヤ！？」

『つち』

舌打ちをして
店内を出た。

く
く

さっきから携帯は鳴りっぱなし
たぶんレイ達だ

でも出る気はない。

だって悪いのはあつちだもん。

とか考えながら歩いていたら

ドンッ！……！！

『いたッ……』

「すみません！」

『つち』

舌打ちしながら
顔をあげると

「大丈夫ですか？」

『え…』

優しい茶色の髪。

女の子みみたいな手

抜群のスタイル。

男だけど

お人形みたい。

「けが…: じゃありませんでしたか？」

「…: 大丈夫です」

「そーですか^^よかった」

「いえ…:」

「じゃあ失礼します」

つと言つて

その人はさつていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3961i/>

私の色

2010年10月11日02時58分発行